

小松島港 外国貿易港 指定70周年

～外国貿易港としての歴史を振りかえって～

小松島税関支署

小松島港（現在の徳島小松島港の小松島港区）は、昭和23年に徳島県下で初めて外国貿易ができる港として指定され、今年70年を迎えました。

現在の私たちの生活は、外国との貿易なくして成り立つことはできなくなっています。徳島小松島港および橋港では、様々な物が輸出入され、特に小松島港区は、定期コンテナ船が入港し、私たちの生活に必要なものが数多く運び込まれるなど、日々の生活に大きく貢献しています。

市民の皆様の協力のもと発展してきた小松島港が、中心的な役割を果たしてきた、徳島県の70年間の貿易概況を振り返りご紹介いたします。

外国貿易船入港状況

指定された当初10隻以下の状態が続いていましたが、昭和35年に本港地区の外国貿易埠頭が完成したことや高度経済成長、平成7年の定期コンテナ船の就航などを要因に増加を続け、平成14年には過去最高の589隻が入港しました。

現在は、木材輸入の減少やコンテナ化など貨物輸送形態の変化に伴い、平成22年以降年間400隻前後となっています。



貿易状況

輸入

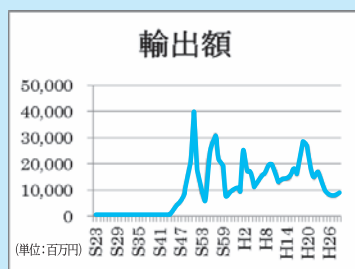
昭和35年以降、木材やパルプなどの輸入増加に伴い、その額も堅調に上昇。平成12年には橋湾火力発電所用の石炭輸入が始まりさらに急激な勢いで上昇しましたが、平成20年に過去最高の1,457億円を記録した後、リーマンショックの影響で翌年は急減しました。現在は回復基調にあり、昨年の輸入額は1,150億円と過去2番目の額となっています。主な貨物は、石炭、非鉄金属鉱およびパルプウッドなどの原料品です。



※輸出入額は、徳島県内で輸出入許可などを受けた金額。

輸出

昭和30年代に単価が高い船舶の輸出が増加し、家具類なども輸出され始めました。金額は、昭和44年から急激に増加し、昭和51年には過去最高の398億円となりましたが、その後は大きく増減を繰り返しながら近年は減少に転じ、平成26年以降は70～80億円台を推移しています。現在の主な貨物は有機化合物です。



【お問い合わせ先】
小松島税関支署
(087) 322-0326

【密輸に関する通報は】
密輸ダイヤル（24時間受付・フリーダイヤル）
0120-461196

【税関の業務について】

税関は、安全・安心な社会の確保、関税等の適正・公平な課税、貿易の円滑化の三つの使命を果たすため、輸出入貨物の通関、関税などの徴収、密輸の取締りなど、秩序ある貿易の発展に努めています。また、皆様の安心・安全な生活を守るため、不正薬物の密輸や国際テロなどに対する取締を強化しています。不審な荷物や人物などのような些細なことでも結構ですので、情報の提供をお願いします。なお、貿易状況・不正薬物密輸状況や税関業務などについての講演、出前授業を承っておりますので、お気軽にお問い合わせください。